

Solan Big Thinkers

たかが「の」一文字、されど・・・

今回の話題は、ひらがなの「の」です。

国語で『たぬきの糸車』を読んでいます。

題名だけを見せたとき、子どもたちは「たぬきの形をしてるんじゃない？」と予想しました。

しかし、読み終わると「なんだあ、たぬきの形してなかった～」というつぶやきが聞こえてきました。

「じゃあ、『たぬきの糸車』って、どんな糸車のことを言いたかったんだらうね？」

こんなふうに「の」を別の言葉に言いかえてみることで、新しい世界が見えてきます。国語の学習では、このように、たった一文字のひらがなにこだわるときもあります。

もちろん、1年生に品詞の話をすることはありません。

学年が上がれば「の」がつく言葉を集めて分類する授業も可能でしょう。しかし、そこまで踏み込まなくても、「言い換え」を通して読解を深めることはできます。

現在、物語プロジェクトでは「ミリーのすてきなぼうし」というお話を読んでいます。

もうお気づきかもしれませんね。

「ミリー『の』すてきなぼうし」ここにも「の」があります。

「の」を別の言葉に言いかえてみました。

例えば、

「ミリーがかぶったすてきなぼうし」

「ミリーが気づいたすてきなぼうし」

などと表現を変えてみると、このお話のストーリーやそこに込められたメッセージが見えてきます。

先日、そんな学習を行いました。

ところで、昨日2月11日は建国記念の日でした。

前日のクロージングミーティングで、

「明日は建国記念の日でね……」

と言った直後、ふと心の中で「また『の』だ！」と思いました。

帰る間際の1年生の子どもたちには言いませんでしたが、建国記念日と建国記念の日は違いますよね。

たかが「の」一文字、されど「の」。

最近は教師の方が「の」に敏感になっているかもしれません。